

CASBEE[®] あいち

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き 使用評価ソフト: CASBEE-BO_NC_2016(v2.1)_AICH

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	アイシン精機(株)西尾ダイカスト工場	階数	地上2F
建設地	愛知県安城市、西尾市	構造	S造
用途地域	工場専用地域、指定なし	平均居住人員	100 人
気候区分	6地域	年間使用時間	1,920 時間/年
建物用途	事務所、工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2018年8月 予定	評価の実施日	2017年10月12日
敷地面積	31,924 m ²	作成者	林 大輔
建築面積	18,916 m ²	確認日	2017年10月13日
延床面積	19,792 m ²	確認者	林 大輔



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.5

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B-: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂温暖化影響チャート

標準計算

①参照値 100%

②建築物の取組み 81%

③上記+②以外の 81%

④上記+ 81%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 2.8

Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.8

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.7

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.2

LR のスコア = 3.8

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.2

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.7

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.3

3 重点項目

①地球温暖化への配慮

3.7

③敷地内の緑化

1.0

外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積) 30.8 %

建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積) 0.0 %

②資源の有効活用

3.7

④地域材の活用

1.0

<外装材に使用した地域性のある材料> なし

<建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材> なし

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
 LR-3 1 地球温暖化への配慮
 ②資源の有効活用
 Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
 LR-2 2 非再生性資源の使用量削減
 ③敷地内の緑化
 Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$



CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き
 アイシン精機(株)西尾ダイカスト工場 南棟二期増築工事

■使用評価マニュアル:
 ■評価ソフト:

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版:
 CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)_AICHI

スコアシート	実施設計段階	独自基準	環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部						全体
				建物全体・共用部	建物全体・共用部	住居・宿泊部分	住居・宿泊部分	住居・宿泊部分	住居・宿泊部分	
配慮項目	重点項目			評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質										2.8
Q1 室内環境						0.31				2.8
1 音環境					3.3	0.15				3.3
1.1 室内騒音レベル				3.0	0.40					
1.2 遮音			T-2以上を使用している	3.8	0.40					
1 開口部遮音性能				5.0	0.60					
2 界壁遮音性能				2.0	0.40					
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)										
4 界床遮音性能(重量衝撃源)										
1.3 吸音				3.0	0.20					
2 温熱環境				1.7	0.35					1.7
2.1 室温制御				2.5	0.50					
1 室温				3.0	0.38					
2 外皮性能				1.0	0.25					
3 ソーン別制御性				3.0	0.38					
2.2 湿度制御				1.0	0.20					
2.3 空調方式				1.0	0.30					
3 光・視環境				3.6	0.25					3.6
3.1 昼光利用				5.0	0.30					
1 昼光率			昼光率=2.5%以上	5.0	0.60					
2 方位別開口										
3 昼光利用設備			トップライト、ハイサイドライトが設置してある	5.0	0.40					
3.2 グレア対策				3.0	0.30					
1 昼光制御				3.0	1.00					
3.3 照度				3.0	0.15					
3.4 照明制御				3.0	0.25					
4 空気質環境				3.5	0.25					3.5
4.1 発生源対策				4.0	0.50					
1 化学汚染物質			F☆☆☆☆をほぼ全面に使用している	4.0	1.00					
4.2 換気				3.0	0.30					
1 換気量				3.0	0.33					
2 自然換気性能				3.0	0.33					
3 取り入れ外気への配慮				3.0	0.33					
4.3 運用管理				3.0	0.20					
1 CO ₂ の監視				1.0	0.50					
2 喫煙の制御			建物全体の禁煙対策がとられている	5.0	0.50					
Q2 サービス性能						0.30				3.7
1 機能性				3.4	0.40					3.4
1.1 機能性・使いやすさ				2.0	0.40					
1 広さ・収納性				3.0	0.50					
2 高度情報通信設備対応				1.0	0.50					
3 バリアフリー計画		独自								
1.2 心理性・快適性				4.6	0.30					
1 広さ感・景観 (天井高)			天井高2.7m以上の上、窓設置	4.0	0.33					
2 リフレッシュスペース			カフェテリア等のリフレッシュスペースを計画	5.0	0.33					
3 内装計画			コンセプトを元に内装計画を行い、インテリアハウスで検証している	5.0	0.33					
1.3 維持管理				4.0	0.30					
1 維持管理に配慮した設計			維持管理に配慮した設計の取組みが標準以上	4.0	0.50					
2 維持管理用機能の確保			維持管理機能の確保に配慮した設計の取組みが標準以上	4.0	0.50					
2 耐用性・信頼性				3.2	0.31					3.2
2.1 耐震・免震・制震・制振				3.0	0.48					
1 耐震性(建物のこわれにくさ)				3.0	0.80					
2 免震・制震・制振性能				3.0	0.20					
2.2 部品・部材の耐用年数		②		3.3	0.33					
1 躯体材料の耐用年数				3.0	0.23					
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔				3.0	0.23					
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔			耐用年数が20年以上	5.0	0.09					
4 空調換気ダクトの更新必要間隔			屋外露出ダクトは、ガルバリウムダクトを採用	5.0	0.08					
5 空調・給排水配管の更新必要間隔				3.0	0.15					
6 主要設備機器の更新必要間隔				3.0	0.23					
2.4 信頼性		②		3.6	0.19					
1 空調・換気設備			熱源種の分散化を行っている	4.0	0.20					
2 給排水・衛生設備			節水器具を採用。汚水ピットの設置。井水利用。	4.0	0.20					
3 電気設備				3.0	0.20					
4 機械・配管支持方法			耐震クラスA	4.0	0.20					
5 通信・情報設備				3.0	0.20					

3 対応性・更新性				4.6	0.29				4.6
3.1 空間のゆとり				5.0	0.31				
1 階高のゆとり			階高3.9m以上	5.0	0.60				
2 空間の形状・自由さ			壁長さ比率0.034	5.0	0.40				
3.2 荷重のゆとり			4500N/㎡以上	5.0	0.31				
3.3 設備の更新性		②		4.1	0.38				
1 空調配管の更新性			仕上材を痛めることなく電気配線の更新・修繕が可能	3.0	0.17				
2 給排水管の更新性			仕上材を痛めることなく通信配線の更新・修繕が可能	3.0	0.17				
3 電気配線の更新性			主要設備機器の更新に配慮したルートが設定されている	5.0	0.11				
4 通信配線の更新性				5.0	0.11				
5 設備機器の更新性			バックアップ設備のためのスペースを設定	5.0	0.22				
6 バックアップスペースの確保				4.0	0.22				
Q3 室外環境(敷地内)					0.39				2.2
1 生物環境の保全と創出		独自③		1.0	0.30				1.0
2 まちなみ・景観への配慮		独自④		3.0	0.40				3.0
3 地域性・アメニティへの配慮				2.5	0.30				2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		独自④		2.0	0.50				
3.2 敷地内温熱環境の向上				3.0	0.50				
LR 建築物の環境負荷低減性									3.8
LR1 エネルギー					0.40				4.2
1 建物外皮の熱負荷抑制			BPIm=0.91	3.8	0.02				3.8
2 自然エネルギー利用			トップライト、ハイサイドライトが設置してある	5.0	0.28				5.0
3 設備システムの高効率化			BEIm値=0.78	3.2	0.42				3.2
4 効率的運用				5.0	0.29				5.0
集合住宅以外の評価				5.0	1.00				
4.1 モニタリング			主要な設備のシステム効率の評価を実施する	5.0	0.50				
4.2 運用管理体制			建物全体のエネルギー消費量の目標値が計画されている	5.0	0.50				
集合住宅の評価									
4.1 モニタリング									
4.2 運用管理体制									
LR2 資源・マテリアル					0.30				3.7
1 水資源保護				3.4	0.15				3.4
1.1 節水			節水型便器を採用	4.0	0.40				
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				3.0	0.60				
1 雨水利用システム導入の有無				3.0	0.67				
2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	0.33				
2 非再生性資源の使用量削減				3.6	0.63				3.6
2.1 材料使用量の削減				2.0	0.07				
2.2 既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.25				
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		②	電炉材(鉄骨、鉄筋)	5.0	0.21				
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		独自	地業:再生クラッシュラン	3.0	0.21				
2.5 持続可能な森林から産出された木材				-	-				
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		独自	躯体と仕上材が容易に分別可能	4.0	0.25				
3 汚染物質含有材料の使用回避				4.3	0.22				4.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用			有害物質を含まない建材種別が4つ以上	5.0	0.32				
3.2 フロン・ハロンの回避				4.0	0.68				
1 消火剤				-	-				
2 発泡剤(断熱材等)			ODP0かつGWPが低い発泡剤の断熱材を採用	5.0	0.50				
3 冷媒				3.0	0.50				
LR3 敷地外環境					0.30				3.3
1 地球温暖化への配慮		①	ライフサイクルCO2概算値:81%	3.7	0.33				3.7
2 地域環境への配慮				3.0	0.33				3.0
2.1 大気汚染防止				3.0	0.25				
2.2 温熱環境悪化の改善				3.0	0.50				
2.3 地域インフラへの負荷抑制				3.2	0.25				
1 雨水排水負荷低減		独自		3.0	0.25				
2 汚水処理負荷抑制		独自		3.0	0.25				
3 交通負荷抑制				3.0	0.25				
4 廃棄物処理負荷抑制			廃棄物処理負荷抑制に配慮した設計の取組みが標準以上	4.0	0.25				
3 周辺環境への配慮				3.2	0.33				3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40				
1 騒音		独自		3.0	0.33				
2 振動		独自		3.0	0.33				
3 悪臭				3.0	0.33				
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制				3.0	0.40				
1 風害の抑制				3.0	0.70				
2 砂塵の抑制				-	-				
3 日照阻害の抑制				3.0	0.30				
3.3 光害の抑制				4.4	0.20				
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			光害対策ガイドラインのチェックリストの過半をみたしている	5.0	0.70				
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策				3.0	0.30				

重点項目スコアシート

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

アイシン精機(株)西尾ダイカスト工場 南棟二期増築工事

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				3.7
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.7	0.10	
② 資源の有効活用				3.7
Q2-2	耐震性・信頼性	3.2	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	4.6	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.6	0.19	
③ 敷地内の緑化				1.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.12	外構緑化:30.8%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用			(評価ポイント)	1.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 アイシン精機(株)西尾ダイ

計画上の配慮事項	
総合	注) 設計における総合的なコンセプトを簡潔に記載してください。 良好な室内環境の確保。
Q1 室内環境	注) 「Q1 室内環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 化学汚染物質の発生しない仕上げ材を採用することにより、室内環境の向上を図る。
Q2 サービス性能	注) 「Q2 サービス性能」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 階高 H=3.9m以上確保し、壁長さ比率0.034により空間の形状・自由度を考慮。
Q3 室外環境(敷地内)	注) 「Q3 室外環境(敷地内)」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 見通しの良い環境とし、防犯性に配慮した計画。
LR1 エネルギー	注) 「LR1 エネルギー」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 設備システムの効率化により、建築物の環境負荷を低減。
LR2 資源・マテリアル	注) 「LR2 資源・マテリアル」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 地業に再生クラッシュランを使用している。
LR3 敷地外環境	注) 「LR3 敷地外環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 光害に対し十分な対策をとる。
その他	注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。